

TENDAI +Links No.1

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

プロジェクト、
開始。

Project for
Community-based
Childcare Support

もくじ

巻頭言 発刊にあたって	杉山 晋平	1
-------------	-------	---

SCENE.1 顔合わせ・交流会	2
-------------------------	---

交流会での気づき	上田 新平
成果を出す必要性	貴村 陽香
人間の活力	福井 隆太
得意なことを活かす大切さ	三鬼 司

SCENE.2 天理市役所訪問研修	8
--------------------------	---

身近に感じた市役所見学	上田 新平
地域に寄り添う活動とは	貴村 陽香
市民のニーズと市役所	福井 隆太
市民のための市役所	三鬼 司

編集後期

天理大学 杉山 晋平

このゼミでは、自分たちが得た経験をじっくり振り返り、その都度、「ことば」に残していくことを大切にしていこう。そうすることで自分たちが得た経験の輪郭を、その経験の意味をしっかりと確かめていこう。

あなたたちが大学と地域の垣根をこえて学び、成長していこうとする時、この地域にはそんなあなたたちを応援してくれるたくさんの人たちがいる。そして、この地域には、あなたが学んだことを表現し、それを発信していくことで支えられる活動があり、そうすることで支えられる誰かがきつという。

だから、このゼミでは学んだことを「ことば」に残していくことを大切にしよう。もっと自分たちが成長していくために。そして、自分たちの「ことば」に耳を傾けてくれるこの地域のために、この地域の誰かのために。

これは、この「天理市子育て応援プロジェクト」のメンバーとなった4人の学生へのメッセージです。この通信を発刊する趣旨を読者の皆様に少しでも感じとっていただけるよ



6月の生涯教育基礎演習の演習風景（情報ライブラリーにて）。本通信の掲載記事の読み合わせに力が入ってきた。

う、創刊号の巻頭言として掲載いたしました。

天理大学生涯教育専攻では、一回生を対象とした導入期の演習科目として「生涯教育基礎演習」を設定しています。今年度より、私たちはその内容と運営を刷新し、ここ天理市をフィールドとした3つのプロジェクトを基盤とする年間を通じた実践的な演習活動をスタートさせました。本通信でお届けするのは、天理市若者世代男女共同就業促進事業に基づいて展開される「天理市子育て応援プロジェクト」に参加した学生による実践記録を編集したものです。

週末に学外活動に参加する4人の学生は、週に一度、この演習の授業の中で互いの経験を報告し合い、実践記録を書いている読み合ったり、次の活動参加に向けた準備をしたり、本通信の掲載記事の編集活動に取り組んだりしています。上の写真は、そんな演習風景の一コマです。

まだまだ手探りの段階ではありますが、週を重ねるごとに、この演習活動にもますます力が入ってきています。本通信の編集・発行にあたっては、学生とともに教員である私自身も日々の教育活動を省察し、地域とともにある大学の可能性を追求していきたいと思っています。皆様にご意見、ご助言をお寄せいただきながら、この通信をひらかれたコミュニケーションの媒体に育てていくことができました幸いです。

知りたいこと、伝えたいことー。
学外のいろんな大人と出会い、
いろんな生き方に触れる。

SCENE 1 顔合わせ・交流会

5月15日（水）、昼下がりの情報ライブラリーでの一枚です。この日の基礎演習は、「顔合わせ・交流会」がひらかれました。今回、年間を通じて「天理市子育て応援プロジェクト」でお世話になる天理市健康推進課とNPO法人ファザーリングジャパン関西の皆さんを迎えての交流セッションです。遡ること一週間前の演習では、学生それぞれが「職員さんについて知りたいこと、自分について伝えてみたいこと」を考えて準備し、この日のセッションに臨みました。緊張と期待が入り交じる中、少しずつほぐれていく4人の学生。少し背伸びをして語ってみたこと、素直な等身大の言葉で語ってみたこと。職員の皆さんに受け止めてもらい、じっくり聴いてもらうことで数々のことばが引き出され、普段とは違った（いや、本来の自然な）学生の姿や表情に私自身も触れることができました。



今回の交流会で印象に残ったお話は、転職に関するものでした。

過去の職場での経験が、どのような業界で役に立つのかは分からないそうで、大学生のうちから一つの道に定めていくのではなく、もっと楽しみながら大学生活を過ごしていくというお話を聞かせていただきました。

私はまだ厳密に進路を定めていません。この言葉を心に、いろいろ模索していこうと思います。

今回のグループ交流では、いろんなお話をさせていただいて、とても貴重な経験になりました。親でも先生でもない、身近な大人の目線から自分の悩みや目標に対してアドバイスを頂く機会などはなかなかありませんでした。だから、新鮮な気持ちになるとともに、自分のことが少しでも理解された気が

がして嬉しかったです。

ただ一つ、反省点を挙げるとするならば、自分の話題について話すことに夢中になってしまって、職員の皆さんのことを理解しようとする態度が足りませんでした。

来週の市役所見学では、積極的にお話を聞きにいきます。

成果を出す必要性

貴村 陽香

天理市やファザーリングジャパ

ン関西の職員の皆さんが相槌をうって聞いてくださったので、交流の準備に取り組んだ先々週よりはうまく話せたと思います。

「『楽しかった』だけじゃダメだ、成果を出さなければならぬ。」これが、交流の中で印象に残った職員さんの言葉です。

私は高校生の時にいろんなイベントを企画して、その中で責任のある立場も経験してきました。「今回の演奏会を見て、その内容によって来年の来場者数や今年入部

する一年生の人数も変わってくるんだ」というプレッシャーに押しつぶされそうになったこともあり

ました。そのような記憶を思い出しながら、「成果を出すということ」の重さを自分なりに理解することができました。

また、私はNPO法人というものに興味がありました。今回の交流では、これからお世話になるファザーリングジャパン関西の寺岡さんにお話を聞かせていただきました。「今やりたいと思ってるならできるよ」と言ってくれたので、少し自信が持てて嬉しかったです。

人間の活力

福井 隆太

【交流会での印象】

最初のアイスブレイクが終わり、2つのグループに分かれて実際の交流が始まる時、僕は正

親でも先生でもない、身近な大人から自分の悩みや目標に対してアドバイスをもらえた。(上田)
「楽しかった」だけじゃダメ、成果を出さなければならぬ。(貴村)



初めに全員が輪になって自己紹介。バタフライボードを使って①名前と出身、②好きなこと・得意なこと、③天理という地域の印象、④(人生／大学での)夢、というお題で順番に語っていきます。終盤、一際盛り上がったのは福井くんの自己紹介。連休中に出かけた廃墟巡りの写真、得意のキーホルダーづくりの作品に周りからは思わず感嘆の声が上がりました。



自己紹介を終え、グループに分かれての交流セッション。学生それぞれが自分の経験をじっくり聴いてもらい、職員の皆さんからたくさんのことをかけていただきました。「今の自分にもっともっと自信を持ていい」、そのメッセージが学生の心にスーッと沁みわたっていきます。自分たちが思っている以上に、この世界にはいろんな生き方がある。そんな予感が生まれ始めた交流になったようです。

直、何を話すべきか内心戸惑っていた。しかし、天理市役所の森さんが話をどんどん引っ張ってくださったので、とても安心した。

印象に残ったのは、「昔、私の先輩が若い人と話すと元気を貰えると言っていたけれども、今となってはその気持ちがわかる。」と森さんが話されていたことだ。

今回、人生経験の少ない僕たちに何が出来るのだろうかと不安に思っていたが、森さんの言葉を聞いて、若い僕たちの活力を今後のプロジェクト活動に活かしていきたいと思った。

【交流会での気づきなど】

気がついたことは、交流するまでは「天理市役所」や「NPO法人」と聞くと堅い真面目なイメージを持っていた。しかし実際話してみるとその印象は崩れ、そこで働く職員さんたちは、どの方も人間味に溢れた方たちだった。

若い僕らの活力を、このプロジェクトに活かしていきたい。(福井)

得意なことを活かすことは、相手のためにもなるんだ。(三鬼)

考えてみると、天理市役所もNPO法人も、それを構成しているのは人である。だから、その活動も人間味に溢れているのは当然だなと思った。

【今後について】

このような天理市役所やNPO法人のイベントの手伝いをすることは僕にとって貴重な体験になる。先にも書いた通り、「活力」を大切にしていこうと思う。

得意なことを活かす大切さ

三鬼 司

先日のグループ交流を経て印象に残っていることは、「得意なことを活かす」ということです。

僕が経験してきた活動では、特にみんなで全てのことをすることが多かったため、全員が全部のことをできないとだめだと認識していました。つまり、「得意なことを活かす」というよりも「苦手ななくす」のが当たり前だと考えていたのです。

しかし、グループに分かれての交流の場で「自分の苦手を克服し

たい」と話したところ、「自分ができることをしてみることでもいい」と言葉をかけていただき、「それでもいいんだ」と気づきました。

天理市側からは「Xをしたい」という意向があり、それに対してFJKさんからは「Xができるノウハウや経験がある」、他方でFJKさんは「せっかくのノウハウや経験を活かす場所や機会をもっと広げたい」、それに対して天理市側からは「それならば場所や機会を提供できます」という関係がつくられていきました。このように、それぞれができること、得意なことを活かしていくことで、天理市とFJKさんが持ちつ持たれつの関係を築いていることを教えていただきました。

このお話を聞いて「得意なことを活かす」ことは、ある意味、相手のためにもなるのだと考えました。



【印象的だったこと】
 財政や水道、教育に対しての厳重さは、とても印象的でした。どれも大切なことであり、考えてみれば当たり前のことですが、市役所の機構形態なんて考えたこともなかったのです、とてもおもしろかったです。

【気づいたこと】

身近に感じた市役所見学

上田 新平

5月22日（水）の基礎演習は学外で実施。この日は天理市役所に訪問し、市役所の機能と職員のの仕事について学んできました。この日も、健康推進課の森さんと児嶋さんにお世話になりました。また、この春から天理市職員として採用され同課に配属となった佐藤さんにも加わっていただきました。まずは、健康推進課の拠点である保健センターにて、天理市行政機構図をもとにレクチャーを受けます。懸命にメモをとりながらも、「あれ？」と思ったところは上田くん、福井くんが矢継ぎ早に、たたみかけるように質問を投げかけていました。レクチャーを終えたら、次は施設見学です。

市民の願いを、市民に代わって力



SCENE 2

天理市役所 訪問研修

見学に行かせていただく前は、市役所に対して事務的なイメージを抱いていました。しかし、よく市役所の施設を観察してみると、いろんな地域住民が入りやすいように様々な工夫がされていることが発見できました。特に、子どもや子育て中の親に対する配慮に力が入っていると感じました。

【学んだこと】

今回の見学では、「市役所」や「行政」という面から天理という地域を知ることができたのが、何よりの自分の学びになったと思います。自分の中でフワフワとあった「市役所」に対するイメージを、より現実的な形に落とし込んで理解することができました。

地域に寄り添う活動とは

貴村 陽香

白票でもいいから投票しよう、そう思いました。意思表示をする

市役所という場所を
こうやってみたことはなかった。



ことで、自分や子、孫がより暮らしやすい地域づくりを支えてくれる代表者を選び、応援したいと思いました。

市民の願いを市民に代わってカタチにする。こんな地域にしていきたいと考えているのは、一人じゃないのかもしれない。

わざわざ奈良市までいなくても、ハローワークの代わりに就労を支援してくれるセンターがあったり、市民がよりよく暮らしていくための活動を支援してくれていることが学べました。

市民のニーズと市役所

福井 隆太

【市役所で話を聞いて】

「健康推進課は具体的に何をしているのか？」という僕の質問に対してお話ししてくださったことが印象に残った。

元気な人に対しては、啓発運動といった形で広く情報を発信す

最初に保健センター内にある天理市子育て世代すこやか支援センター「はぐ〜る」を見学。オープンな相談窓口の向こうには自由に遊べるホールもあり、親子連れでにぎわっていました。サークル活動や話し合いができるスペースもあります。その後、何と天理市役所庁舎を全フロアを案内していただきました。あまり足を踏み入れることのない上の階に進んでいくほど... 雰囲気は〇〇に!? さらに広報室では生涯教育専攻を卒業した先輩が働いていました! 市議会がひらかれるという最上階では、何だかちょっと緊張してしまいましたね。



る。自分は病気なのではないかと不安に思っている人、あるいは、高齢者や赤ちゃんといった病気になりやすい人には検診などを勧める。そして、既に病気を患った人に対しては、個別に相談対応したり、医療機関に繋げる。そのように、健康推進課では市民それぞれのニーズに合わせてサービスを提供されていることが学べた。

また、子育てをはじめ、幅広い事業が健康推進課の業務に含まれている理由も印象深かった。そもそも「健康的な子育て」や「健康のための環境づくり」といったように、健康はすべての業務に通じるという言葉はすごく心に響くお話だった。

実際に市役所の中を歩いた印象は、1階と2階は多くの市民がよく利用するということで、温かみのある雰囲気だった。しかし、上の階に進んでいくと、雰囲気が一気にかたくなった印象を受けた。



顔合わせ・交流会の最後に記念撮影。おかげさまで学生も晴れやかな表情でスタートをすることができました。

「健康推進課の『健康』は、全ての業務に通じる」という言葉が心に響いた。(上田)

また、市民がよく訪れる場所のいくつかには、小さい子どもが遊んで待ったためのスペースが設けられていた。安心・安全の子育て環境の充実を推進していきたいという天理市の意志がしっかりと体感できた。

市民のための市役所

三鬼 司

お話の中で特に印象的だった点は、地域を活性化していくために市役所の行政機構を大幅に変更したというお話です。昔から続く仕事と同じように続けいくというのが市役所に対する私のイメージでした。しかし、実際にはそのイメージ

と天理市役所は随分違うものでした。今の天理のために行政機構を改革し、より柔軟に動きやすくすることで地域を活性化するというお話によって、これまでの私のイメージはいい意味で変わり、深く印象に残りました。

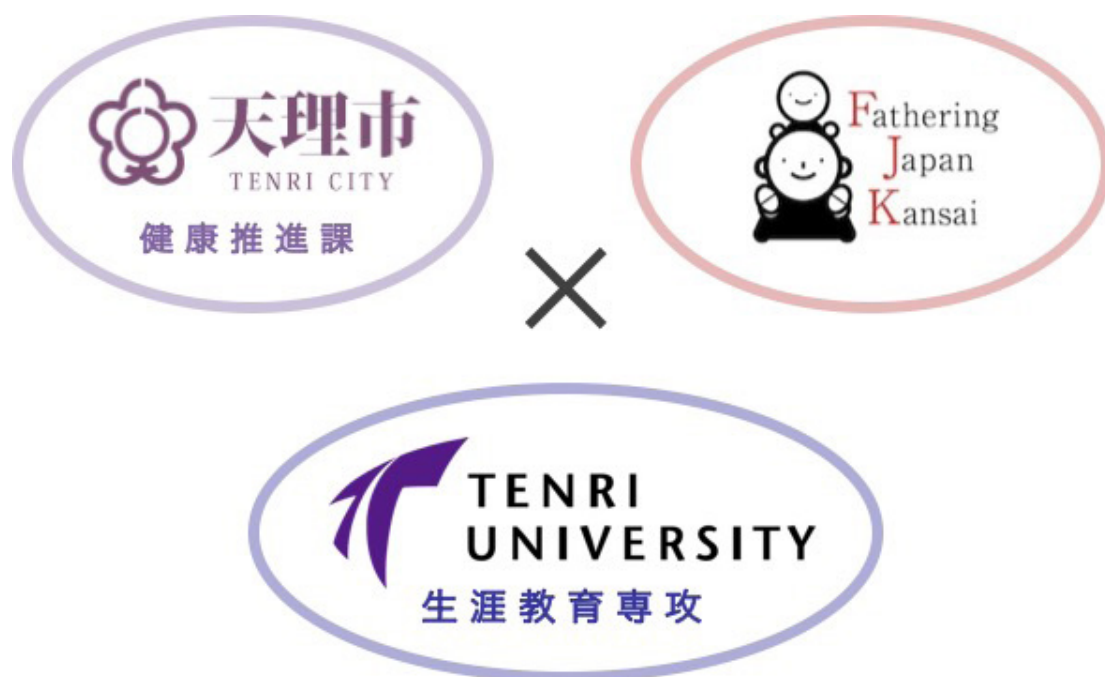
また、市役所の建物のつくりは、効率的なものでした。市民が頻繁に訪れる課を1、2階に配置し、お子さん連れが利用する施設は本庁舎とは別に設置するなど、建物にも思いやりが溢れていることが強く伝わってきました。

いよいよ生涯教育専攻の「子育て応援プロジェクト」が動き出しました。

天理市健康推進課、FJKの皆様と出会ってちょうど一年。この春、専攻に迎えた学生とともにこのようにプロジェクトを一緒にできることに、あらためて喜びをかみしめております。

さて、次号からはいよいよ父子体験教室の「パパスクール」の様子をお届けします。学生が子育てを楽しむお父さんたちの素敵な姿をレポートします。学生メンバーは、ちょうどパパスクールに参加されるお父さんたちとパパたちとのあいだに位置する世代です。そんな学生ならではの視点を活かして、みんなの力を合わせて、天理の子育てをもっと、もっと元気にしていけたらと思います。

次号からの「パパスクール」特集、ご期待ください。



TENDAI +Links No.1

生涯教育専攻 子育て応援プロジェクト通信

発行日	2019年6月21日
編集・発行	天理大学 人間学部 人間関係学科 生涯教育専攻
協力	天理市健康福祉部健康推進課 NPO法人ファザーリングジャパン関西(FJK)
連絡先	〒632-0032 奈良県天理市杣之内町 1050 shimpei@sta.tenri-u.ac.jp (担当：杉山 晋平)
